

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	土田陽子
職 位	短時間研究員
<p>研究概要</p> <p>2012 年度は、これまでの研究成果を博士学位論文「公立名門高等女学校にみるジェンダー秩序と階層構造－県立和歌山高等女学校の事例から」にまとめ上げた。</p> <p>博士論文は、近代日本の代表的な女子中等教育機関である高等女学校に焦点を当て、女学校教育がいかにして近代的なジェンダー秩序を形成し、あるべき男女のあり方として伝えたのか、また、どのような過程を経て、人々がその秩序を受容したのかという点について、旧城下町和歌山市の公立名門高等女学校（県立和歌山高等女学校：通称 和高女）の事例から実証的に明らかにすることを目的としたものである。</p> <p>分析に際しては次の 2 点に注目した。1 つめが中央における女子教育に関する議論や政府の方針が、地方の高等女学校においてどのような教育実践を通して実体化していったのか、またそこにメディアがどのように関わっていたのかという点である。2 つめが女学校間の序列と高等女学校が伝達したとされる「良妻賢母」教育の内実との対応関係および生徒の階層構造との関連である。論文では、地域の近代化過程における「学校」「生徒（家庭）」「メディア」の 3 者のダイナミズムに注目し、ジェンダー秩序形成の解明を目指した。</p> <p>GCOE では 2009 年度、2010 年度の次世代研究ユニットにおいて、「近代地方都市の公立名門高等女学校における生徒文化の特徴と構造－家庭教育と学校教育のせめぎ合いに着目して－」「公立名門高等女学校の同窓会誌における理想的女性像の構築－和歌山市・京都市・神戸市との比較分析から－」を研究し、これらはワーキングペーパーの作成を経て博士論文の第 3 章「学校文化と生徒文化の特徴と構造」、第 5 章「あるべき卒業生像」の構成要素となった。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p><ワーキングペーパー></p> <p>2012 年 8 月 「公立名門高等女学校の同窓会誌にみる『あるべき女性像』－県立和歌山高等女学校と府立京都第一高等女学校の比較分析から」『GCOE Working Paper 次世代研究 74』, 京都大学グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」</p> <p><博士論文公聴会></p> <p>2012 年 11 月 「公立名門高等女学校にみるジェンダー秩序と階層構造－県立和歌山高等女学校の事例から」</p> <p><京都大学博士学位論文></p> <p>2013 年 1 月 「公立名門高等女学校にみるジェンダー秩序と階層構造－県立和歌山高等女学校の事例から」</p>	